

考え行動する消費者市民を育む消費者教育教材資料 —「教え方」や「学び方」も導く複合型教材—

選考委員会委員長 梶山女学園大学 教授 東 珠実

消費者教育教材資料表彰の趣旨と概要

消費者教育教材資料表彰は、「消費者教育の実践において特に有益・効果的な教材や資料を発掘・周知することを通じて、学校現場における消費者教育の普及・促進を図る」ことを目的としている。今年は54教材の応募があり、選考委員会での審議の結果、21教材を「優秀賞」に選出した。また昨年の優秀賞から、各教材を活用した教員の評価に基づいて「内閣府特命担当大臣賞」候補1教材と「消費者教育支援センター理事長賞」1教材を決定した。

教材表彰の選考結果について

1. 内閣府特命担当大臣賞

「内閣府特命担当大臣賞」には、浜松市の「浜松から未来をひらくエシカル消費－SDGsの達成に向けた消費者市民としての行動－」が選出された。これは、中学生用の冊子と副読本(指導ガイド)からなる印刷教材で、消費行動が社会、経済や環境に及ぼす影響を理解させ、「エシカル消費」を通して持続可能な社会の構築に寄与する「消費者市民」の育成を目指している。

教材の特徴は、写真やイラスト等をヒントに、生徒に地球がかかえる問題やその背景に気づかせ、問題解決のために自分にできる行動を考えさせているところである。また、教師用に家庭科、社会科、道徳等における豊富な授業実践例が紹介されている。このような特徴は、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」をサポートするものである。

教材を活用した教員からは、地球規模の問題が普段の生活とも密接に関連していることがわかりやすくまとめられている点、使い勝手が良い点、消費者市民としての行動を考えさせ、自ら調べる探求心を高める設定になっている点などが高く評価された。

2. 消費者教育支援センター理事長賞

内閣府特命担当大臣賞を選考する過程において、日本マクドナルド株式会社の「『食育の時間+ (プラス)』～テーマ7 食品ロスを考えよう～」に消費者教育支援センター理事長賞を授与することとした。この教材は、小学生等を対象とした食に関する7つの視聴覚教材のコンテンツの1つで、探偵たちが「食品ロス」の原因を探り、解決策を考えさせていくストーリー仕立てになっている。DVDには、映像コンテンツに加えて教員向けの指導案、板書計画、発展学習や短時間利用の提案などもあり、Webサイトから利用することができる。

教材を活用した教員からは、子どもたちが馴染みや

すいキャラクターである点、謎解きという仕掛けにより楽しみながら学ぶことができる点、短時間利用のコンテンツにより授業以外のさまざまな場面での活用が可能である点等が評価された。

3. 優秀賞

最後に、優秀賞の選出についてである。今回の応募教材は、SNSやスマートフォン関連等の若者に多い消費者トラブル、新学習指導要領で新たに加わった小学校での売買契約や中学校での三者間契約のほか、SDGs、海洋プラスチックごみ問題、エシカル消費、個人間売買をはじめ、昨今の社会的課題を反映した幅広いテーマを扱っていた。受賞教材の多くに共通する特徴としては、わかりやすさ、見やすさ、写真や図の効果的使用、柔軟に利用できる構成、アクティブラーニングの導入のしやすさなどが挙げられる。選考にあたっては、消費者教育の視点が明確であることなどを重視した。総じてこれまで以上にレベルが高く、教員の教え方をサポートする指導ガイドや生徒の学び方を導くワークシートなどを組み合わせた複合型の教材が多く見られた。図1のように教材資料のレベルをとらえると、「レベル2」つまり、教え方モデル(指導計画等)と学び方モデル(ワークシート等)があることは、すでにスタンダードになりつつある。

そのうえで、今後はさらに教師の指導能力や児童・生徒の学習能力に応じてカスタマイズが可能な「+α教材(レベル3)」への期待が高まるところである。

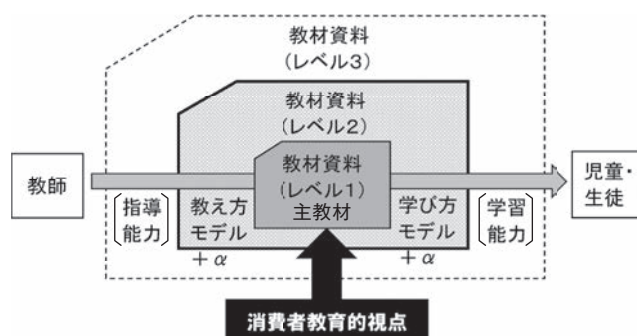


図1. 消費者教育用教材資料に求められるレベル